



元気っ子通信

平成 30 年 7 月 9 日発行

もうすぐ夏休みです。新1年生もたくましくなってきました。

遠慮気味にあそんでいた頃とは違い、上級生と関わっているいろんな遊びを教えてもらっています。上級生も1年生が分かりやすいように遊びのルールを変えて一緒に遊んでお互いが刺激をもらっています。ケイドロ、サッカー、ドッチボール、ままごと等々、宿題が終わった後は外へ飛び出して腹の底から声を出し、遊びに夢中になっています。

これが子ども時代に過ごす大切な時間だと思います。

最近、怖い事件が続きます。「この人はどんな育ちをしてきたんだろう？」と考えてしまいます。大方の予想はつきませんが、家族との関係、周りの人、仲間とうわべだけのかかわりしかもてず、本気でしゃべり、ぶつかり合いをしてこなかった結果の姿だと思われます。

一番の責任は家庭だと思われます。毎日毎日の会話、特に両親や祖父母の会話や行動の中から子どもは意識はしていなくてもたくさんのことを感じ、善悪の判断力、あいさつ、言葉遣いなどを身につけます。それが昔からの諺にある「子は親の背をみて育つ」です。

こうしたことが基となってその人の「人格」をつくると思います。

いつも言っていることですが、テストでいい点を取ればいいのではなく、たくさんの要素がバランスよく備わっていることが大事です。

子どもにとっては、「両親が人生の一番の先生」です。

お迎え時の帰りの身支度は子ども自身に忘れ物をしないように考えさせ、自分で持って帰るようにして、これから先の身のまわりの把握につなげていってほしいと思います。

温暖化で地球上は火山の爆発、洪水、地震などで大きな被害が起きています。日本もあちこちで今まで経験したことのないような自然災害が起きています。

ゴミを減らす、水道を出しっぱなしにしない、まめに電気を消す、アイドリングなど、できることからはじめましよう。資源は無限ではありません。

子ども達の将来が希望の持てる時代であるように願うばかりです。

中 瀬